



おたすけっ十有志隊

グエン ティ ロアン
NGUYEN THI LOAN

日本の生活はどう？それは母国の友達がよく聞く質問です。一年前なら、「特になし。」と答えたいでしょう。

本来外国に住むようになると、その国の言葉を喋れるようになると無邪気に思い込んでいました。日本語が得意でなくせい、私は自分に対して大きな期待と自信がありました。だから私は日本に来る前に大きな目標を立てていたのですが、日本に住み始めた途端、自分が完全間違っていることを気づきました。会社でも、スーパーでも日本人が言う事が全然分かりませんでした。日本人も私が言っている事も分かりませんでした。とても大変でした。次第に自信を失って、日本人に会うこと、日本語でしゃべることが恐くなりました。毎日同じで、会社に仕事をしに行き、アパートに帰るだけでした。そんな風に8カ月の間、単調な時間だけが過ぎました。この状態が続けば日本語が進歩しないだけでなく、ノイローゼになるかもしれない、何かやらなければならないと感じていました。

去年の六月のある日、先輩に相談しました。先輩は「休みの日に、なぜあなたたちはボランティアに参加しないのか。」と言われました。

「素晴らしいアイデアですね、一緒に行こう。」とすぐさま返事を返しました。翌日に私たちは公民館に行き、ボランティアに参加できない

かとお願いしました。3週間後、幸運にも「おたすけっ十有志隊」を紹介していただきました。それは神科小学校の教育を支援することを目的として結成された団体です。

毎日の午前の10時に時間があれば、小学校に行き、児童達と一緒に日本の伝統的なゲームで遊ぶのです。けん玉とか、お出玉とか、あやとりなどです。ゲームの時間が終わったら、メンバー達は一緒に座って、お茶を飲んだり、お喋りしたりします。最初、私は凄く心配して、ビクビクしましたが、児童達とおたすけっ十メンバーの応援のおかげで、だんだん自信が持てるようになりました。日本語だけでなく、私は色々な貴重な体験ができました。児童達と遠足に行ったり、運動会に参加したり、入学式を初めて垣間見ることができました。特に小学二年生と一緒に食事をした時は、私にとって、特別なご飯になりました。

私は一年前に比べると、ずいぶん変わりました。目に見えて、沢山成長できました。日本に来た当初は、日本のことがあまり分かりませんでした。今では次第に日本の文化、教育などをだんだん理解できるようになりました。いつからこうなったのか分からないくらい、沢山の事がありましたが、私の日本に対する愛はもっと、もっと大きくなっています。今、誰かに「日本の生活はどう？」と聞かれたら、私の答は「日本の生活はとても楽しくて、色々なことを勉強させてくれます。そして、この国には素晴らしい家族がいます。それはおたすけっ十有志隊という家族です。」です

国籍	ベトナム
職種	プラスチック成形
実習実施者	株式会社アイカム
監理団体	全国人材支援事業協同組合